

生物多様性と金融の関わり

2022年2月10日

金融庁 総合政策局総務課国際室

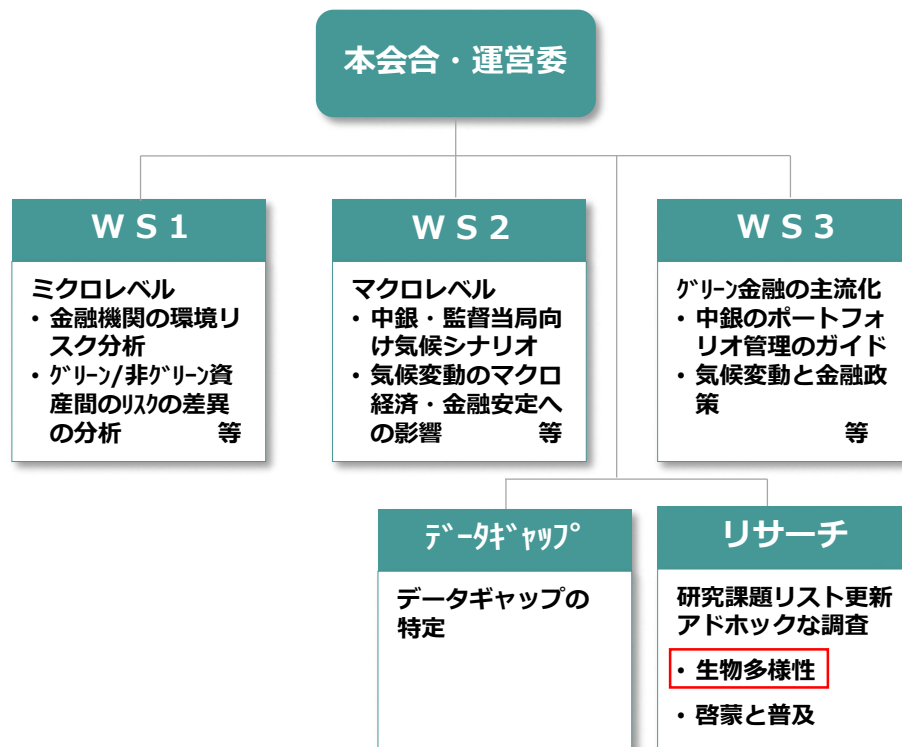
高橋沙織

※本発表で述べる見解や考えは、あくまで個人的なものです。

NGFS 生物多様性に関する中間報告書の概要

- 2021年10月、NGFS（The Network for Greening the Financial system:気候変動リスクに係る金融当局ネットワーク）有志とリサーチネットワークINSPIREは、**生物多様性に関する中間報告書 “Biodiversity and financial stability: building the case for action”を公表**。
- 本報告書は、2021年6月に公表されたVision Paperを受け作成されており、2022年前半に最終報告書を公表予定。

NGFS組織図



NGFSの概要

- ・気候リスクへの金融監督上の対応を検討するための中央銀行及び金融監督当局の国際的なネットワーク（Coalition of the Willing）として、2017年12月に設置。
- ・現在100の当局・中銀が参加しており（2021年11月3日時点）、日本からは金融庁及び日本銀行が加盟。

生物多様性に関するリサーチの経緯

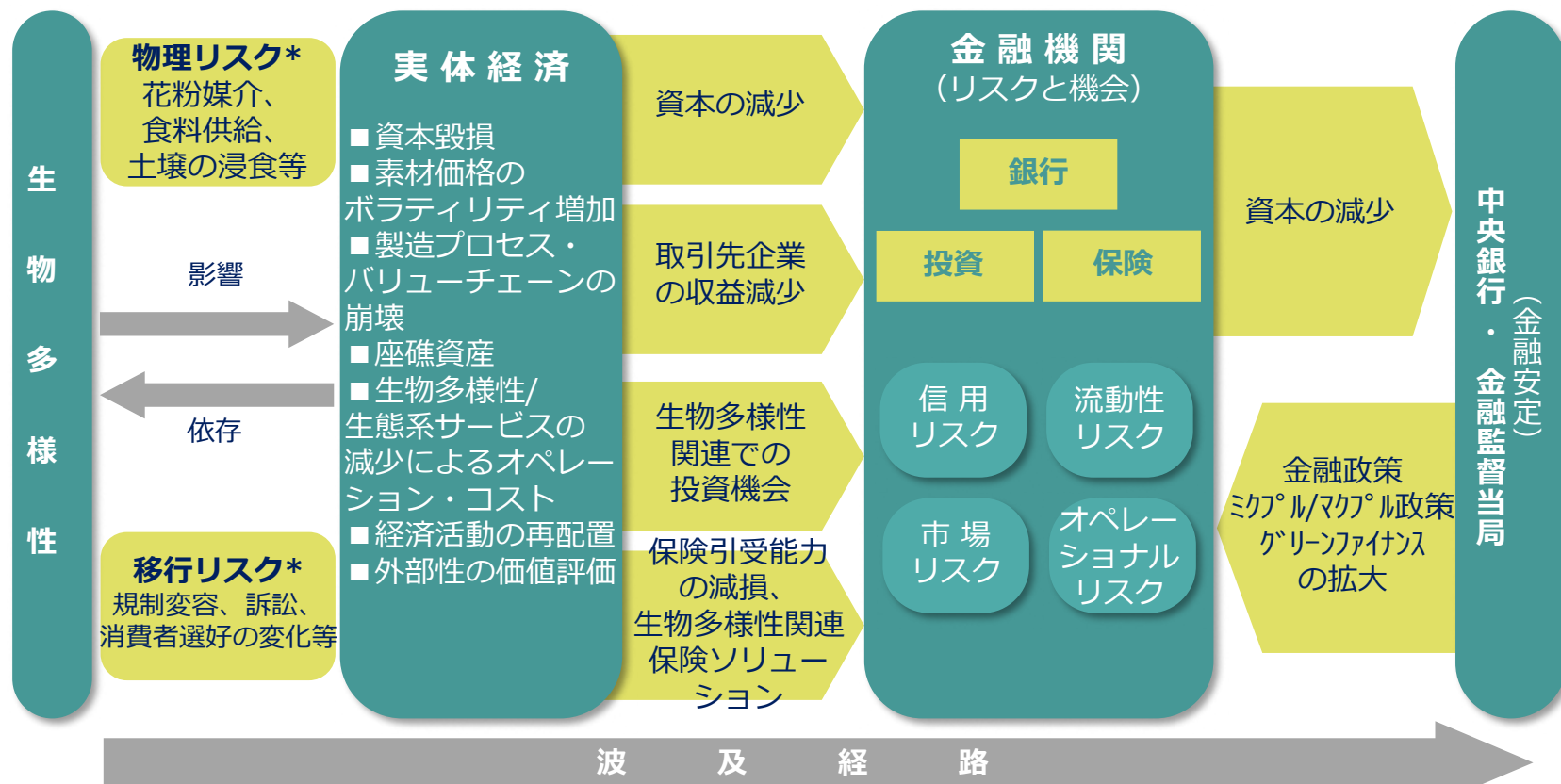
- ・ **Vision Paper（2021年6月）**
生物多様性損失とマクロ経済、金融システムとの関連性を提示
- ・ **中間報告書（2021年10月）**
生物多様性関連の金融リスク評価にあたっての課題、ハイレベルに金融当局へのタスクを提示
- ・ **最終報告書（2022年前半公表予定）**
金融当局へのタスクについて、より包括的な検討を行う予定

※ 上記報告書は、NGFSの正式な発行物ではなく、NGFSメンバー以外を含むリサーチチームの発行するインフォーマルな“Occasional Paper”の位置づけ。

生物多様性損失の金融安定への波及経路

- NGFSリサーチでは、生物多様性損失の物理リスク・移行リスクが金融機関及び金融システムに影響を与える可能性があることを示唆。両者間の波及経路について、より理解を進める必要があるとした。

生物多様性損失が実体経済、金融システムに影響を与える波及経路



*「物理リスク」の例…授粉媒介者の減少に伴う収穫量減少や人工授粉コストの増加（慢性的リスク）、害虫による収穫高の減少や疫病の蔓延（急性的リスク）、森林破壊による気候・水循環システムの崩壊（慢性的・急性的リスク双方）等
「移行リスク」の例…政府の政策、技術革新、訴訟、消費者選好の変化等

民間セクターでの取組み

- 欧州の投資家を中心として、シンクタンクやNGO、国連関係機関とともに、生物多様性損失に対応するイニシアティブを立ち上げている。これらの取組みにより、金融機関や投資家をユーザーとする生物多様性に関するメトリクスや評価ツール、データベースが構築されようとしている。
- また、開示や目標設定に関するイニシアティブも枠組みや要素の具体化を進めている。

民間開示枠組み

自然関連財務情報開示タスクフォース (TNFD : Task force on Nature-related Financial Disclosures)

2023年までに、自然関連開示の包括的な枠組みを開発することを目指す

The Align Project

生物多様性関連の会計制度や計測手法の協調を目指す

ツール策定

AXA IM、BNP Paribas AM、Sycomore AM、Mirovaからなるコンソーシアムでは、Iceberg Data Lab及びI Care & Consultとの協働のもと、生物多様性損失の影響を計測する投資家向けツールを開発中

Global Forest Watch Pro & Global Fishing Watch

森林・海の生態系に関するデータベースや地理情報をリアルタイムで提供

Science Based Targets Network

Science Based Targets Initiativeによる気候関連目標に沿って自然・気候双方に関する目標を設定した企業を支援することを計画

中央銀行及び監督当局のアクション

- 生物多様性損失の課題に対し中央銀行及び監督当局ができることとして、①キャパシティ等の構築、②依存度と影響の評価、③金融機関等への発信、④政府の取組み支援を挙げる。

※これらの取組みについては、2022年前半に公表予定の最終報告書にて包括的に検討がなされる予定。

Build the skills and capabilities

- 生物多様性関連の経済及び金融リスクへの対応に向けて、スキル、キャパシティ、ツール、協業関係を構築

Assess dependency and impacts

- 金融機関の生物多様性への依存度と影響（インパクト）を測定
- モデル、シナリオ分析、新しい評価手法などの構築が考えられる

Signal to financial institutions

- 金融機関等に対し、生物多様性への依存度と影響（インパクト）を理解することの重要性を発信

Support governments' efforts

- 金融リスクへの対応及び金融インフラの整備を通じて、生物多様性損失を反転させるための政府の取組みを支援

シナリオ分析における考慮が考えられるナラティブ

- 保護区域の拡大等、COP15や国内・地域内での生物多様性関連政策に関する政策
- セクターごとのシナリオの具体化
- 生物多様性リスクの元となるものに関するナラティブ及び質的な議論